

## 2025年度入学式学長告辞

下関市立大学

学長 韓 昌完 (ハン チャンワン)

2025年度は下関市立大学にとって特別な年になるでしょう。データサイエンス学部の開設に続き、今年度新たに看護学部が加わったことで、本学は名実ともに総合大学としての新たな歴史を歩み始めます。下関市長 前田 晋太郎 様ならびに下関市議会議長 林 真一郎 様をはじめ、ご来賓の皆さまと共に、この歴史的な瞬間に立ち会えましたこと大変嬉しく思います。今年度、学士課程に585名、うち留学生として11名、編入学生として19名を迎えました。学部別では、経済学部423名、データサイエンス学部80名、そして看護学部の記念すべき第一期生が82名です。また、大学院修士課程に13名、特別支援教育特別専攻科に2名をお迎えします。

本学創立以来64回目にして、総合大学としての初めての入学式を迎えました。新しくなったのは校舎だけではありません。学生たちを教え導く教育力と研究力に優れた教授陣と、それを支える事務職員が新たに加わり、総勢177名の大学教職員が皆さんの入学を心待ちにしてきました。本学は、年々激しさを増す大学間競争を勝ち抜き、西の名門大学としての確固たる地位を築くための『SCU Vision 2040』の実現に向けて、強い意思と信念を胸に本格的な飛躍への一步を踏み出してまいります。これまで、「未来社会の創造」「地域社会との共創」「国際社会との共創」を掲げ、一つひとつ着実に成果を積み上げてきました。データサイエンス学部と看護学部の開設は重要なステップであり、ようやく舞台が整った本日、本学はこれまでの遅れを取り戻して未来に希望を繋ぐためにも、不確実な世界に勇気を持って飛び込んでいく決意を固めています。

さて、そんな本学で勉学に励んでいく入学生のみなさんに、これからの大学生活がより豊かに、みなさんの人生にとってかけがえのない時間になるように、学長としてアドバイスを贈りたいと思います。

一つは、「道具」とは使いこなすものであるということです。人類の進化は、常に道具とともにありました。最初の認知革命により、推論する思考が生まれ言葉という道具を獲得してから、農業革命、産業革命、情報革命と人間を豊かにする道具を開発してきたのです。道具を使うことで自らの能力の限界を超えてきた革命の歴史でもあり、それは道具に助けられるだけではない人間の能力そのものの拡張でした。今、最も革新的な道具はAIです。

二つめは、「ネットワーク」には力があるということです。歴史学者のユヴァル・ノア・ハラリによると、人類社会における繋がりが、単なる人間関係を超えて権力や価値創造の源になってきています。ネットワークはただの情報伝達の手段にとどまらず、今では相互に影響し合うことで新しい価値を生みだしています。はじめは人と人を繋げるだけだったFacebookやInstagramなどが、広告やコンテンツ制作、AI学習と結びつくことで新しい価値を生み出す巨大なエコシステムになりました。人は一人でできることに限界があります。先の道具の話に繋がりますが、人類は言葉を使いこなして、動物的な群れから社会的集団へと成ったことで大きな力を得ました。皆さんが本学で学ぶ間、結ばれる様々な繋がりを大切にすると同時に、現代社会のあらゆる物事を繋がりという視点でよく見極め、自分の人生にどう活かしていく

のかを絶えず悩み、工夫を重ねてください。

三つめは、「意味」を問うことです。作業の自動化や効率化が急速に発展する一方、そこに含まれる本質的な意味や目的を見失いがちになっています。道具を使う側であるみなさんが、意味を問う努力や知識の探求を怠らないこと、道具を使うときにはその目的と結果の繋がりを想像すること、そして創造力や共感性、倫理的判断といった極めて人間的な能力を磨くことを忘れないでください。

今、個人を取り巻く環境はAIの登場によって大きく変わり、働き方や日常生活における常識が次々と覆されています。先が見えない、将来の不透明さが増す世の中です。しかし、決して恐れないでください。本学が、皆さんの先頭に立って道を切り拓いていきます。今日お伝えしたアドバイスを踏まえて未来のための努力を惜しまず続けてください。みなさんが本学での学びを通して新しい時代を力強く生き抜き、自らの未来を切り拓いていく姿を、私たちは心から願い、懸命に支えています。

本日は改めまして、ご入学おめでとうございます。